

令和7年 第10回大河原町教育委員会定例会議録

1 招集日時 令和7年10月17日（金）午後2時00分

2 招集場所 大河原町役場 2階 第1会議室

3 出席委員 一益森広志委員、丹羽宣博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者

櫻田尚 教育総務課長、斎修 生涯学習課長、小野寺淳一 学校教育専門監、

5 開 会 午後2時00分

6 令和7年第9回教育委員会定例会議録の承認について

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 承認する。

林委員、片倉委員 署名。

7 教育長報告

(1) 一般事務報告 なし

(2) 専決事務報告

報告第6号 専決処分の報告について

(工事請負契約の変更 令和7年度大河原町立小中学校特別教室等

空調設備設置工事)

(損害賠償の額及び和解)

教育総務課長より説明。

丹羽委員

大河原小学校体育館での事故について、まず怪我をした男子中学生は痛かったんだろう。普通練習が終わった後は、体育館を掃除すると思うが気づけなかったのか。それが残念に思う。

鈴木教育長

大河原小学校体育館については、町内小中学校の体育館のなかで築年数が一番古く、49年経過している。床板フロアの木ネジの部分が緩んでいるところが何ヶ所かあり、現在は白いテープでネジの頭が出ないように処置している。いずれ大規模な改修工事が必要となってくる。見積りを取ったところ、フロア全体の改修で数千万円、工期は数か月かかる見通しで、子ども達が体育館を使えない期間が出てきてしまうが、一番は児童生徒の安心安全の確保が最優先なので、時期を見て進めていきたい。

8 議　事

**議案第 34 号 大河原町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について
の点検及び評価について**

議案第 35 号 大河原町障害児就学審議会委員の委嘱について
教育総務課長、生涯学習課長より説明。

鈴木教育長 | (委員全員に諮って) 可決する。

9 その他

(1) 教育長報告

1 生きていくのに必要なもの「人の体温」

(1) よみうり寸評 (R7. 8. 29 読売新聞)

(2) 志あれば道は開ける (姫野和樹 R7. 8. 25 読売新聞)

大きな一点目は、「人の体温」ということで、よみうり寸評と読売新聞に載った記事について紹介するもの。最初のよみうり寸評の方は、連続テレビ小説「あんぱん」で語られていた言葉が述べられている。子ども達が生きていくのに必要なものは、栄養のある食べ物、住まいと続き、最後に上がるのが「人の体温」である。だから、贈り物は子どもを抱きしめてから渡すのだということで、その、「人の体温」について読売新聞の記事にラグビー選手である姫野和樹氏の記事が載っていたもの。

姫野選手は、非常に貧困な家庭に育ち、家にいたくない為、いつも外にいて、公園の遊具とかアパートの外階段で過ごしていた。中学からラグビーを始めたが、遠征にお金がかかる。だから別なポジションをわざと受けて落ちて、皆に知らないようにしたりしたが、もう死んで樂になろうと本当に厳しい生活の中にいた時、友達の顔が浮かんで、公園で半分もらった肉まんとかアイス、それが一番の温かい優しさなんだというふうに書いている。そういう友達の笑顔があったから、今生きている。回らない寿司や、でっかいステーキを食べられるようになった今も、子供の頃に友達が半分くれた肉まんやアイスよりおいしいものを食べたことない、あれは「優しさの塊」でできている、というようなことを述べており、それが、連続テレビ小説「あんぱん」の体温と通じるものがあるのでないかと思う。

こういう温かさを持った人というのは、やはり大人になってもいい人間に成長していくのだろうなと思う。

2 総合的な学習（探求）の時間

(1) 探求的な学習の過程における端末の活用について（文科省）

(2) 総合的な探求の時間副読本『ふるさと探求 おおがわら学』

① 『ふるさと探求 おおがわら学』（構想メモ）

② 『ふるさと探求 おおがわら学』（例）

③ 『ふるさと探求 おおがわら学』教師のための解説（例）

大きな2点目は、総合的な学習の時間、探求の時間について。出来てから、かなり経過しており、一益森委員がセンターの指導主事をなさっている頃に総合的な学習の時間としてスタートしたが、なかなか進展していない現状である。

小野寺専門監が出席した今年の教育課程の説明会でも話がでたようだが、この総合的な学習の時間の本当に持つ力というものを理解し、今後展開していくかなければならない。

このことも踏まえて、大河原町の独自の学習を展開できないか、総合的な学習を展開できないかということで提案したいのが、(3)の『ふるさと探求 おおがわら学』である。12ページに構想メモを載せているが、来年1年をかけて各学校から何名か先生方に集まつていただき、作成していただくことになるもの。

冊子の中の主な内容として、22項目を挙げた。自然、歴史・偉人、先人、文化、もっとあるが、あまり細かくしてしまうとどこで区切ったら良いかわからなくなるため、このくらいで良いかと考えている。

構想メモの 4 各内容に係る研究者については、いろいろな先生がいらっしゃるため、各分野で先生方に聞きながら探求活動を進めていければ良いと考えている。

もちろん、文献研究が一番メインになると思う。理科だと学校内や家庭内で出来る実験観察などが主になると思う。大河原町の歴史や先人など、ここまで知っていれば本当に素晴らしい探求学習になるのではないかと思う。

本日お渡ししているのが、仮で作成した青い表紙の冊子『ふるさと探求 おおがわら学』で、表紙をめくつていただき、はしがきから目次、総合的な探求の時間の進め方のあとに、写真と解説文を載せて紹介しているもの。

一目千本桜や梅まつりは、大きな写真を載せて紹介し、偉人・先人は大河原町ゆかりの人物について、時代や背景とともに説明している。また、歌人や大河原町から出土した土器や石器、神社なども紹介している。このような歴史については、やはり言葉をまず調べないと前に進めないため、難しいし時間もかかる。しかし、理解が出来、頭が整理されるところいう流れだったのかというのがわかることがある。この『ふるさと探求 おおがわら学』は、写真と平易な文章で書いてあるため、子ども達も分かりやすいのではないかと思う。

そういうものを作り、大河原町の子ども達、小中学生にこの大河原町を学んでもらい、ふるさと愛、大河原愛というか、シビックプライドというか、そういうものを育めれば良い。来年1年をかけて作成に取り組み、令和9年度から使いたいと思っているものである。予算等の兼ね合いもあり、認められるかはまだわからないが、予算は100万～120万くらいで考えている。

丹羽 委員 | おおがわら学で取り上げられている寺社仏閣については、大高山神社が紹介されているが、自身が住職を務めている繁昌院には、800年の歴史がある貴

鈴木 教育長
一益森 委員

重な阿弥陀如来坐像があるほか、江戸時代から伝わる掛け軸などもある。他の寺院についても歴史が古く、貴重な文化財などもあると思うので、調べて是非紹介してはどうか。また、大河原町には教会があり、貴重な建造物である。近隣市町にも教会はあまり無く珍しいので取り上げてほしい。

今度の文化財保護委員会や、委員の先生方にも聞いて調べてみたいと思う。気になったのは、括りをどう括るのがいいか、ということ。

「自然」、「偉人・先人」、「歴史」、「文化」の4つの括りについては、教育長も苦肉の策で分けられたと思うが、どういうふうに袋を作ればいいか、というのがかなり難しい。私が考えたのは、大河原南小学校の総合の「ふるさと学習」の学年割の括り方がなかなか良いのではないかと思った。5学年の「大河原町の産業について調べよう」とか。産業という括りはどうかと考えた。アイリスオーヤマだったら、なぜアイリスが大河原町に根付いたかを始めるなど。子ども達にとって、ランドマークというか、目につきやすいというのは、とっかかりやすいと思う。そういう意味では産業へのアプローチ、例えばアイリスもであるし、仙台銘菓菓匠三全の工場がなぜ大河原町にあるのかや、とんとんなどもある。「産業」という括りも一つあっていいのではと思った。

鈴木 教育長

確かに魅力的な題材であると思う。アイリスオーヤマや菓匠三全などは全国的にも有名な企業であるし、今後取り上げるかどうか検討していきたい。

(3) 今こそ教師の指導力の発揮を（田村学）

14ページからは、文科科学省の主任視学官である田村学先生の論説で、深い学びを行うために、総合の中で頑張りましょうとか、デジタルを活用していきましょう、というような記事が書いてあったもの。端末を使うというのは、国の政策であり当然やっていかなければならない。このような総合的な学習の時間で活用していくことが大事だと思う。

3 不登校の子の健診

18ページ、新聞報道でもあった不登校の子の検診状況調査についての記事。不登校の子は、学校の校医健診を受けていないのではないかとある。大河原町ではどうなのかと思い調べたところ、大河原町教育委員会では、大人の町教員の健康診断の際に、不登校児童生徒も呼び、採血や心電図を受けさせているもの。私はこれを教育委員会のスタッフが優秀だと感じた。また、各学校の養護教員に聞いたところ、対応しているのが大河原中学校の養護教諭であった。20人の不登校生徒に呼びかけを行い、10人が受診したこと。これは大きな成果だと思う。

4 R7 全国学力学習状況調査質問紙調査の結果

19 ページは全国学力学習状況調査質問紙調査の結果で、非常に子どもたちの良さが表れている。また、先生方の良さも表れているもの。例えばわかるまで教えてくれるとか、そういう先生の割合が本当に多く、親切な先生が多いと感じている。

また、塾の通塾率について、大河原町は非常に低い。小学生は 21.3%。つまり 8 割は入っておらず、全国よりも 22 ポイントも低い。中学生は通塾率が 47.7% で全国が 59.8% ので 12.1% 低い。塾に通わなくても、大河原の子ども達は学力が高い。学校や家庭できちんとやっている証拠だと思う。ただ、中学生になると授業理解度や好き嫌いなどが低くなったりするため、先生方は工夫していく必要がある。ただ大河原の子ども達は非常によく頑張っていると感じる。

5 問題発見・解決能力の育成

(1) 中学校国語 問題発見・解決能力の育成

(2) 中学校数学 問題発見・解決能力の育成

23 ページからは、中学校の問題発見あるいは解決能力への育成ということで中等教育資料に載った資料。国語と数学があるが、中学校の資料というのは抽象的で高度であり、それだけ言葉が抽象化されており、なかなか読みづらい。実践のところもあるがこれも抽象的であり、あまり具体的ではない。ただ高度なのでそうしないとやっていけないのではないか。先生方も指導が大変だと思う。もっと具体にわかりやすいような指導が必要なのではないか。

6 「主体性」

(1)『世界の教育はどこへ向かうか』「主体性」

(2) 学習評価「主体性」(読売・河北 報道)

31 ページからは「主体性」(白井俊先生)について。主体性の評価というのは現在中教審でも非常に議論されており、36・37 ページに主体性の評価は比重を小さくとか、「態度」が対象外となる等、我々が今まで 3 観点とか 4 観点と言ってきた評価の中の態度面について、評価しにくいという理由で取扱いを小さくする議論がされているもの。先日、早稲田大学の田中博之先生に来ていただき、この話を聞いたところ田中先生もどうなるかまだわからないというようなお話であった。ループリックを使って今のところ主体性の評価をしていくことは間違いないというようなことで励ましをいただいたもの。

7 文学の授業の深まり(「学びのたより」石井順治)

38 ページ、は石井順治先生の学びのたよりからで、文学の授業の深まりということで、私は、38 ページのこの図が非常に気に入っています。石井先生の本当に柱になる考え方ではないかと思っている。これは「くじらぐも」とか「やまなし」、それから「お手紙」というような教材を解説しているのだが、本当に丁寧に子ども達の意見を

待って、吸い上げてやっているなと思う。

8 カスター・ハラスメント

- (1) 「カスハラ自殺労災認定」(河北新報)
- (2) 学校で何がカスハラにあたるのか(師子角允彬)
- (3) 「カスハラ」があった場合の学校の対応(岩崎孝太郎)

44 ページからは「カスター・ハラスメント(カスハラ)」について。

やはり学校の中でも、保護者からの理不尽な要求があり、先生方も本当に心を痛めている。役場においてもカスハラがあり、本当に人格否定されるようなことを言われることもある。白石市で条例制定しているようだが、カスハラが原因で自殺するなどは本当に悲惨なことであり、あってはならないことだと思う。

そのため、職員を守るためにもカスハラの条例制定は必要である。なくならないまでも歯止めになる。なんとか職員を守るようなことをしていかなければならない。学校もしかりだと強く思う。

9 いじめ問題

- (1) 12 年目のいじめ防止法(小野田正利)
- (2) 東京都渋谷区から文科大臣への大事な提言(小野田正利)

それから、51 ページからは、小野田正利先生のいじめ防止法、渋谷区から文科大臣への提言を載せている。同じような流れで、いじめ防止法の抜け穴というか、弱い部分があり、そうではないところを検討してほしいということが言られている。これは私たちも今まで取り上げてきており、小野田先生の文章を読み、確かにその通りだな、というようなところがたくさんある。いじめの記録がそのままずっと裁判まで使われている等、そうなったら先生方は記録を本当に書けなくなってしまう。そのようなことが起こっている。

10 学校事故について

11 その他

- (1) 大中・金中合同バレーボール練習会(リガーレ)
- (2) 金ヶ瀬中 指導力向上研修 3年国語(佐藤愛美)
- (3) 指導主事訪問 大河原南小4年国語(福島稚菜)
2年算数(前田琳太郎)
- (4) 大河原小 全学級道徳授業の日
- (5) チャレンジキャンプ蔵王「インリーダー研修会」
- (6) 大河原南小 おやじの会主催「防災キャンプ」
- (7) 金ヶ瀬小 指導力向上研修5年算数(山中大)
- (8) 大河原中 指導力向上研修2年国語(大友千沙希)

- (9) 大河原中 指導主事訪問3年音楽（山口朋美）
1年英語（有田日菜子）
2年技術（佐藤隆亮）
- (10) OH!かわら楽校④「ニジマスつかみ・ブローチつくり」
- (11) 金ヶ瀬中 指導力向上研修 1年数学（藤田大希）
- (12) 大河原小 指導力向上研修 5年国語（大沼史輝）
- (13) 中学校総合体育大会大河原地区新人大会
- (14) 金ヶ瀬中 志教育講演会（佐藤源之）
- (15) 尾形亀之助講演会（中里寛）
- (16) 町教研提供大河原中3理科（尾本雄道）

写真記録等について資料により説明。

丹羽委員	カスハラの件について。絶対になくならない。毎日テレビを見ていると、危険運転やあおり運転もなかなかなくならない。今の新しい車は大体前後にカメラがついているが、それをわかっていても、もうカーッとなってしまうと、腹が立ってしまうと、見失ってしまう。 そういう世の中であるが、できるだけ子ども達には、少しでも豊かな心をもち日々の生活を送るように、大人を変えることはもうできないような感じがするが、子ども達を変えるのはやはり教育の力だと思うので、そのあたりのところはよろしくお願いしたい。
一盃森委員	トータルでの意見だが、探究的な学習を大事にしていきたいということについて、ここ何回か続けてあるが、主体性について白井俊先生の「世界の教育はどこへ向かうか」と、各教科、中学校の中等教育資料の話があるが、結局全部つながっている。主体性と言っても、日本で言っている主体性は、実に曖昧だという話が白井先生の話で出てきてるわけだが、主体性という言葉が曖昧だというのであれば、学びのプロセス、「PDCA」ではないけれども、問題を発見して気づいて、それを分析して計画を立て探求して、結果について表現をして回していくという学び方をしていく、そういうことで主体性を見つけていくということがこれからとても大事だと感じた。
林委員	総合的な学習の時間で行う、『ふるさと探求 おおがわら学』について、すごく大事なことであり、子どもたちに育てたいところである。私自身もこういうのが入っていたら良いなと思うが、それを言い出したら多分パンクしてしまうと思うので、言わないでおく。ただやはり、この資料の中に大河原を感じられるものとして、町の地図や役場、公民館などの連絡先を載せるといいのではないかと思う。地図があつてここで調べ、公民館がここにあるから公民館の方に聞いてごらんとか、役場に聞いてごらんとかというような誘いかげがしやすい資料が後ろの方にあるといいのではと思ったもの。

それから、これまで行ってきた各校のふるさと学習を見たときに、やはり、福祉と防災もかなり入っているとなれば、例えば避難所はここここにあるからそこにどういうものがあるか調べたいと思う子もいるのではないか。白石川という大きな川を抱えており、そういった人を助け合うような要素がどこかに欲しいなと思ったりした。そういう大河原町の財産として、人がいて、物ももちろんあって、生き物、人がいて、人ととのつながりがあって財産かなと思っていたので、そこに少し触れる資料、例えば公民館活動やお祭りもそういったことと加えて載せられるかなと思ったもの。

片倉委員

ふるさと学習について、私も気になって見ていた。大河原小学校の取組みについては、全部学校行事のような感じであり、大河原南小学校の取組みは全部良いなという風に見ていた。その南小学校の中で、4年生の防災マップを作ろうというのは、町内に住んでいる小学生皆が知った方が、災害が起きた時に共有できると思うので、これは全部の小学校で取り組んでいくべきではないかと思う。

あとは私も「産業」が気になっており、町内には大きな企業がいるので、そういうのを調べるきっかけから、様々な業種を知るきっかけになっていいのではないかと感じた。

(2) 各課長報告

教育総務課長、生涯学習課長

令和7年度行事予定について説明。

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和7年11月20日（木）午後2時から開催する。

11 閉会宣言 午後3時30分

令和7年11月20日

署名委員

署名委員